奄美群島における水産物の地産地消の推進

大島支庁林務水産課

【背景・目的】

奄美地区においても消費者の魚食離れが進んでおり，地元で獲れる魚介類に対しての理解を深めながら，地産地消の取組を進めていくことが課題となっている。

このため離島漁業再生支援事業等を活用したお魚祭りなどの消費拡大イベントと小中学校における食育支援などを通して地産地消の取組を推進することとした。

【普及の内容・特徴】

（１）離島漁業再生支援交付金事業による取組

①お魚祭りにおける地魚の販売

主な開催地区：宇検，喜界，瀬戸内，天城，伊仙，徳之島，和泊，与論

②魚の捌き方教室の開催

主な開催地区：笠利，龍郷，大和，瀬戸内，天城，徳之島

③各種イベントにおける魚食普及

主な実施地区：笠利，名瀬，住用，龍郷，大和，瀬戸内，和泊，与論

（２）食育支援の実施

古仁屋小学校（瀬戸内町），秋徳小学校（瀬戸内町），大勝小学校(龍郷町)において水産業に関する座学や漁業者の講演及び捌き方教室と試食会などを併せて実施しした。

学校名	実施日	対象生徒数	主な支援内容
古仁屋小学校	H26.11.11	335人	水産業の講演，魚の解体，給食
秋徳小学校	H27. 1.31	8人	魚の調理・加工体験，試食
大勝小学校	H26. 9.24	15人	水産業の講演

（３）直売所スタンプラリーへの参加

大島地域かごしまの“食”交流推進協議会が主催し，平成26年10月1日～12月28日にかけて開催された「しま　まーさんもん応援団 奄美を丸ごと食べよう！奄美大島・喜界島直売所スタンプラリー」に水産関係直売所３団体も参加し，地産地消を推進するために情報発信を行った。

【成果・活用】

各地区におけるお魚祭りや魚の捌き方教室等の継続的な開催により，地元水産物に対する消費者の理解が進み地産地消に繋がることが期待される。

今回，農産物の直売所が中心になったスタンプラリーに参加したが，今後も連携して地産地消の推進に取り組む必要がある。

お魚祭り　　産業祭出店　　ﾖﾛﾝﾏﾗｿﾝｳｪﾙｶﾑﾊﾟｰﾃｨへ食材提供

図１　与論地区における魚食普及の取組

図２　漁業者の解体ショー

図３　地元水産物の説明

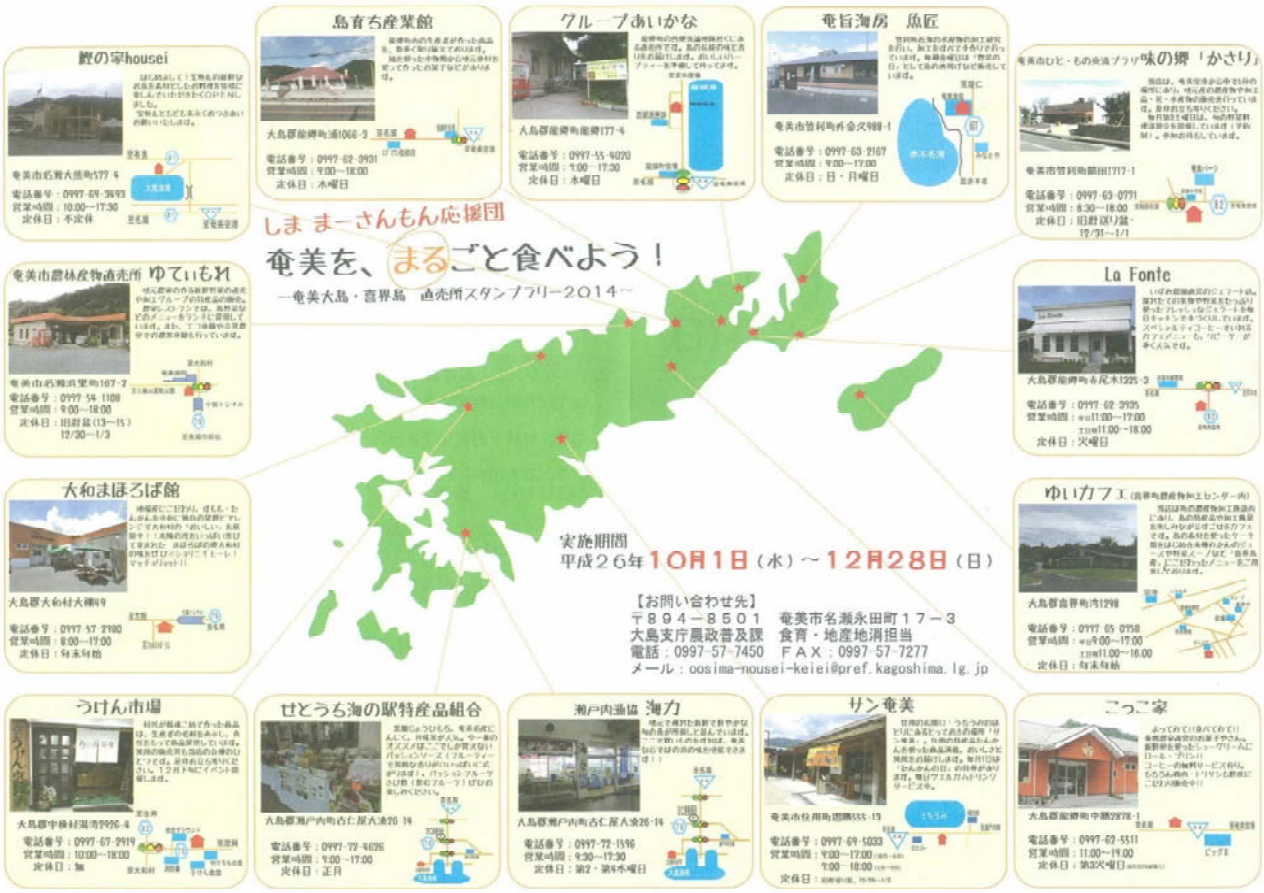

図４　農林水産物直売所スタンプラリーのパンフレット